

新宮山彦ぐるーぷ第1943回

## 東北三山など(鳥海山、羽黒山三神合祭殿、月山、蔵王山)遠征登山

◇実施日：2017年08月25日(金)～28日(月)

◇参加者：川島 功、沖崎吉信、児嶋道夫、前田 正、濱野兼吉、大江加予子・徳子、畑林清子、生熊千満子、上村洋司・和美、樋口義也、奥村順夫、竹中卓司、高階鈴子・美根子、三井幹雄、石橋哲郎・隆子、椎木 堯・照子、梶野照雄(27～28)。  
添乗員：中西和子(和歌山新日本旅行) 22名。

### 8月25日(金)「獅子ヶ鼻湿原↓元滝伏流水」 晴時々曇

新宮組は、沖崎車(沖崎・濱野・児嶋、上村夫妻・添乗員・中西)大江車(川島・前田・大江親子・畑林・生熊)に分乗し5時に出発し、南紀田辺ICで阪和道に入り、印南SAと岸和田SAで小休止し、松原JCTで阪神高速道に入り池田線の豊中北出口で9時頃に降りる。大阪空港の車の乗降位置に並ぶと、沖崎車と大江車の間に紀勢道・新名神道経由の尾鷲・海山組の奥村車(奥村・竹中・樋口・高階姉妹)が偶然並んだが、奥村車は気付かず列を離れる。なかなか荷を降ろすことが出来ず、一旦駐車場「アサヒ」へ行き、送って貰おうと「アサヒ」へ行くと奥村車が先着していた。「アサヒ」の先導誘導車で3台一緒に空港に戻り、運転者以外は全員降りる。運転者は「アサヒ」に戻り、「アサヒ」の車で空港に送って貰う。

空港内に入ると、27日夕方に合流する梶野氏が見送りにわざわざ来て下さる。先刻空港に着いた際に搭乗券手配に降りられた添乗員・中西さんから搭乗券が、各自に手渡され手荷物を預ける。公共機関利用の広島の椎木夫妻、兵庫の三井さんは集合するが、和歌山の石橋夫妻が合流しないので、携帯電話をするが通じない(携帯電話番号の記載間違)。

10時過ぎになり、一部の人を残し搭乗口2階に上がって行く。と、石橋夫妻が2階で9時頃から待っていたとのこと。2階搭乗口には、見送者が入れないので、梶野氏と再会を楽しみに別れる。



空港内に集結



搭乗券配布



手荷物を預けた後



搭乗待ち



搭乗口で待機



搭乗のプロペラ航空機

搭乗口7番ゲートは、一番端にあり歩く距離が長い。

定刻通り機内搭乗が始まり、ANA1653便は、双発プロペラ機(70人乗り)で国内では初体験飛行となる人も多い。うなりをあげるエンジン音と共に11時10分に離陸。

機長より高度約7500mで安定飛行に入り、秋田空港の天候は晴

とのこと。予報では、前線通過により昼頃まで大雨注意報が発令されていたので到着時を心配したが内心安堵する。

能登半島、佐渡ヶ島上空を飛行して、山形、秋田上空を飛行すると、濁った河川が見られ、氾濫した箇所も見える。雲間から残雪を抱いた高い山が見え鳥海山だ！

12時35分に秋田空港着。搭乗人員が少ないので手荷物を受取るのは容易である。

秋田空港で昼食と思ったら、昼食抜きで宿に早く入る事にしますとの事。

貸切バス(運転手：佐藤さん)は、象潟(きさがた)合同バスの大型バス(45人)である。当初28名の参加申込があり手配したが、出発約2週間前に中型バスへの変更を折衝したが、明日26日は日本三大花火大会(大曲・土浦・長岡)の大曲花火大会が開催されることから、この時点でのバスのやり繰りが難しいとの事から変更できなかったとの事。ゆったり座れる分、割り高は免れない。大曲花火大会は、昨日からの豪雨により雄物川が増水して、まだ開催が決定していないとの事。



秋田空港・手荷物待ち



秋田空港と貸切バス



獅子ヶ鼻湿原入口

秋田空港を出発して最初に、湧水と原生林の獅子ヶ鼻湿原を散策することになり14時過ぎに到着。

ここは、鳥海山麓北側に位置し、ブナの原生林に囲まれた森は、「あがりこ大王」をはじめ奇形巨木群や「出つぼ」といわれる湧水池、「鳥海マリモ」等が見られる湿原で、フルコースは約2時間半であるが、1時間半で散策する事になり「森の巨木百選」の「あがりこ大王」と「出つぼ」間のコースを散策した。腹が空いたので売店で腹ごしらへになる物を求めていた。散策コースは、大半が木道で本当に良く整備されていた。



整備された湿原木道



樹齢300年の奇形巨木ブナの「あがりこ大王」



「出つぼ」標識前にて



「出つぼ」湧水池



入口売店前にて

次に鳥海山に染み込んだ水が、幅30mの岩肌一帯から豊富に湧き出している「平成の名水百選・元滝伏流水」を見る。



元滝伏流水の案内板



元滝伏流水の風景



道の駅「ねむの丘」に移動して、6F展望台から鳥海山麓に点在する60あまりの島々が田園地帯に浮かんでいる様に見える「九十九島」の独特の風景を眺望した。昔は、海の中に点在する島々であったが、大地震により隆起して陸になって出来たそうです。

鳥海山の全容が望まれ、明日は絶好の登山日和になりそうだ。



九十九島の風景



鳥海山山容

にかほ市の象潟夕日の宿「さんねむ温泉」に17時過ぎに到着。夕食懇親会は、18時より「鳥海山登頂を祈念し乾杯！」で開宴。

予定より30分は早い5時40分発に旅館に折衝して頂き、朝食のおにぎりは用意して頂く事になった。又、昼食+飲料水は近くのコンビニで、各自が調達する伝達事項を伝える。



「さんねむ温泉」での夕食懇親会



早朝発の疲れもあり19時半過ぎに閉宴にして、コンビニで明日の昼食を調達して21時頃に就寝。

### 行動タイム

新宮5:00→6:25南紀田辺IC→印南SA→岸和田SA8:00→阪神高速→豊中北出口9:00→9:10大阪空港11:05→(ANA1653)→12:35秋田空港13:00→14:05獅子ヶ鼻湿原15:40→15:50元滝伏流水16:25→16:40道の駅「ねむの丘」17:00→17:10「さんねむ温泉」。

### 8月26日(土)「鳥海山→羽黒山」

山は視界不良・暴風。山麓は曇り後晴

5時前に起床。朝から晴れると思ったが、雲が多く朝焼けてしている、地元の天気予報では9時頃より晴となっている。

5時40分に旅館を出発、鳥海山の中腹以上は雲に覆われて山容が望めない。鳥海ブルーラインの展望良い場所から九十九島の独特の風景と昨日立寄った「道の駅」辺りが眺望出来た。

象潟口コースの鉾立駐車場(標高1150m)に6時20分に到着。

鳥海山まで約4時間40分かかるところから、先頭の歩行ペースメーカーを樋口氏にお願いするつもりであったが、10日程前にテニス中に肉離れをして無理との事から、畑林さんをお願いする。



ブルーラインから眺める

鉢立便所前にて

鉢立を出発!

舗装登山道を辿ると程なく展望台があるが、標高1500m以上は雲がかかり見えないので立寄り尾根沿いの登山道を進む。尾根下に増水した奈曾溪谷が、源流谷筋も白く流れているのが見える。天候が回復するだろう下山時に撮影する事にして撮らなかつた。

登山道は、道幅約2mで岩を割った跡のある敷石の階段を登って行く。道端には時折赤紫のハクサンフウロウや白のハクサインチゲを見ながら辿る。



30分程歩いて休憩

賽の河原・岩の目印

「御浜」に到着

湿った気流ガスが吹き流れ、上衣雨具を着用する。

尾根筋の登りから左斜面沿いに辿ると、広く迷わない様に岩に目印された賽の河原・6合目(標高1520m)に着き小休止。

小休止後、視界が一層悪くなり少し風も強くなる。降りて来る女性登山者に声をかけると「風が強くて引き返す」との事。

尾根直下の御浜神社の祀られた御浜小屋(7合目・標高1700m)に着くと、小屋前は強風が止むのを待つ登山者で一杯になる。

10m程登り尾根に出ると身構えないと吹き飛ばされる台風並みの暴風(風速25m以上か?)で、岩陰で強風を避ける登山者もいる。予報では9時頃から晴の予報になっていたので、しばらく待機して回復を待つことにする。

外に出て来られた小屋の人に、天候の回復を尋ねると「この状況は15時頃迄続くのでは・・・」との事。

再び偵察に尾根に出ると風が少し弱くなり、右下に鳥海湖と辿る扇子森(2500)の稜線が見える。小屋に戻り、間隔を空けないように並んで出発を決める。樋口氏は此処で待機するとの事。

尾根に出ると視界が悪く再び強風となる中、約50m進み振り返ると濱野・大江徳・畑林・川島のみで、後に続いて登って来ていない。

再び強風が吹き出し、座り込み道端の岩を掴むなどする。小屋へと戻る途中、4人は大岩の陰でしばらく強風を避け、強風を受けながら小屋に引き返すと、皆は待避し「こりや無理やで!」と言っている。

8合目の八丁坂、コルの七五三掛(しめかけ・1820m)から千蛇谷コースを辿り、頂上小屋(御室小屋)から新山(2236m)をピストンすると約3時間。下山は大物忌神社を経て三角点の在る七高山(2226m)に登り、外輪山コースを下る事にしていたが、この状態の中で無理に進むと一層所要時間が必要となる事から、登頂を断念して下山を決定し、御浜を9時に下山開始。登って来た時よりも悪天候になり、回復の兆しも見えない。

途中、添乗員・中西さんに登頂断念して下山する旨を伝える。



ガスった中で小休止

象潟ロコース鉾立にて

一回小休止をして、10時40分に象潟口駐車場に戻った。登頂を断念し早く下山したので、表参道から羽黒山山頂の出羽三山(羽黒山・月山・湯殿山)の神々を合祀する三神合祭殿を参拝する事にする。

羽黒山の犬鳥居をバスで通り抜け宿坊の町並みに入ると、羽黒山「秋の峰入り」で法螺を吹きながら羽黒山行者・信者が、各地から集い羽黒山表参道へ長い列を成し歩いておられる。

随神門から始まる表参道は、全長約1.7km、2446段の石段があり、両側には樹齢350〜500年の杉並木が続き、山頂迄徒歩で約60分との事。



随神門前にて



須賀の滝



樹齢一千年の爺杉

随神門を抜け、石段唯一の下り坂を下ると祓川に架かる朱塗りの神橋があり、対岸に須賀の滝がかかる。橋を渡ると樹齢一千年の爺杉、程なく国宝・五重塔がある。此処から神域にふさわしい杉並木で、石段の急な登りが一の坂から三の坂がある。

羽黒山(五重)山頂の三神合祭殿を参拝して、山頂駐車場へ。樋口氏は、五重塔から戻ると、バスを降りた地点にバスが無く、バス待機場所を捜すのに手間取ったようである。



国宝・羽黒山五重塔

三神合祭殿

鐘楼と大鐘の広場

山頂駐車場から鶴岡駅前のホテルルートインに15時半頃に到着。鳥海山は、一日中雲がかかり、山頂は全く見えなかった。

ホテルの宿泊は、シングルとダブルの部屋であり、夕食は各自で済ませることになる。18時からのホテルレストランで大半の方が、夕食をされていた。

### 行動タイム

「さんねむ温泉」5:40→6:20 象潟口・鉾立6:25→6:40 展望台→7:35 賽の河原7:45→8:25 御浜小屋9:00→9:35 賽の河原→10:40 象潟口・鉾立11:00→12:40 羽黒山随神門12:55→14:00 三神合祭殿→羽黒山駐車場14:30→15:30 ホテルルートイン鶴岡駅前。

8月27日(日) 「月山」 快晴

ホテルを7時半に出発、今日は鳥海山の全山容が見られる。月山高原牧場を経て羽黒山への十字交差路で、右折して月山8合目駐車場(標高1400m)に9時半に到着。



ホテルからの月山



駐車場からの月山(右端)



山並を眺望

舗装道を辿ると直ぐに分岐があり、中之宮経由のコースへ。弥陀ヶ原湿地帯には、整備された木道があり右側通行し辿ると、残雪を抱いた鳥海山が良く見える。



残雪を抱いた鳥海山



月山中之宮



弥陀ヶ原湿地帯を望む

なだらかな尾根に登り右折すると。登山道には円形コンクリー

トが足場に敷設されている。程なく月山中之宮(御田原神社)に至る。湿原を周遊する分岐地点を過ぎ弥陀ヶ原が終わると、クマササの背丈が高く、勾配のきつい無量坂を越えた地点で小休止。



無量坂を越えた地点で小休止



一の岳の山裾に登る



一の岳の山裾を徐々に高度を上げて行き、二の岳(1758.7m)直下近くの山裾に登り尾根に出ると、佛生池小屋が見える。小屋の傍に佛生池(標高1743m)があり9合目である。オモワシ山(1828m)とは、真の頂を隠して、自らが頂上と「思わし」めることに由来とのこと。



山裾を辿る



オモワシ山と佛生池小屋



行者返しの道標

佛生池小屋を過ぎると、登山道の石が大きく歩きにくい、やがて急斜面の登りに「行者返し」の道標が在る。役行者が除魔童子に修行の未熟を悟らせ、羽黒山に返された伝説がある場所である。



月山山頂



木道が整備されている



月山神社

整備された木道を辿ると程なく月山神社が見え、手前のややきつい斜面を登ると、狭い月山山頂(一等三角点・1979.8m)である。1984mの月山山頂は、神域でロープが張られている。



月山山頂に掛て万歳三唱



山頂からの眺望満喫



月山頂上小屋の前を通り、南向きの月山神社本宮へ。登山ルートがいくつもあるので参拝者が多く順番待ちをする。

修験道の山であり、般若心経の勤行をしても良いかと聞くと通じない様だ。神道系の修験道であり、御祓い(500円/人)をして月山神社本宮に参拝する(撮影禁止)。登拝認定書と月山神社御祓守を拝受。

南側の斜面で昼食。児嶋さんコーヒを煎れて下さる。下山は、同じルートを引き返す、足を痛めている樋口氏は、小休止しながら下山しているが、遅れる事無く月山8合目駐車場に14時50分に全員無事下山した。



南側斜面で昼食



児嶋喫茶開店!



月山をバックに撮影

大型貸切バスは、対向車を交すのに一苦労されている。

その内、ガクン・ガクンとなり、対向車を交す道路巾の地点で停車、クラッチギヤが機能しないとの事。児嶋氏はオイルにエアが入ったのでは・・・とのアドバイス。しばらくしてエンジンブレーキの利くギアが入り、羽黒山と月山交差点までゆっくり下るが、やはり調子が悪いので代替バス(庄内バス)を手配したので1時間半程待つことになる。添乗員の中西さんは、これまでこんな体験したことのないハプニングとの事。

17時10分に代替の庄内バスが来て、荷を積み直し上山温泉「古窯」に19時10分到着。先着した梶野氏の出迎えを受け合流する。

日本の宿「古窯」は、1300年前の窯跡のあった場所から命名された由緒在る老舗旅館で、多数の有名人が描いた楽焼皿が展示飾られている。

快晴で汗をかいたので最後の夕食懇親会は20時から開宴し21時半前に終宴した。

大浴場は、1F・紅花と8F・蔵王があり、時間帯による男女交代制で「蔵王」から蔵王山頂が望まれる。



フロント前に集合 最後の夕食懇親会



閉宴後に撮影

### 行動タイム

ホテルルートイン 7:30→8:30 月山 8合目 P 8:35→8:50 中之宮  
9:00→10:20 佛生池小屋→10:55 行者返→11:35 月山山頂 11:45  
→11:55 月山神社本宮 12:05→12:10 昼食 12:45→13:35 佛生池小  
屋 13:45→14:40 中之宮→14:50 月山 8合目 P 15:00→15:40 羽黒  
山・月山交差点 17:10→19:10 上山温泉「古窯」。

### 8月28日(月) 「蔵王山」晴時々曇り

応急修理が出来ず、代替の象潟合同バスを同行していた佐藤運転手さんが運転して、昨夜「古窯」に乗入れたとのこと。

上山温泉「古窯」を8時半に出発し、蔵王エコーラインから蔵王ハイラインに入り、刈田岳山頂駐車場(標高約1720m)に9時2

5分に到着。レストハウスは改修中であるがトイレは使用可。刈田岳から下った地点に御釜(水深30m、直径330m)などの展望台があり、一旦集結後に熊野岳へと登る。

少し下り「馬の背」から少し登った地点に避難小屋と熊野岳山頂への分岐がある。

山頂へと斜面を斜上すると、山頂の熊野神社の社が見えると山頂は近い。



馬の背へ下る



御釜



熊野神社が見える

10時15分頃に登り、木製の鳥居をくぐり参拝する。神社の東側が熊野岳(1841m)になっているが、二等三角点(1840.3m)で、少し遅れて登って来る人待機。

すると、高階鈴、樋口氏は、避難小屋方角へ登って行ったこと事なのでしばらく待つが来ないので、三角点を囲んで登頂写真を撮る。

下山は、熊野岳から登ったコースを引き返す班と樋口氏等が居る可能性のある避難小屋経由の班に分かれ、先刻の展望台で合流する事にする。一旦下山しかけたが熊野神社に戻り、椎木氏導師に般若心経の勤行をする。





山頂の熊野神社



三角点を囲んで撮影



熊野神社で勤行

避難小屋経由で下山した上村和美さんが、熊野岳から下った川島が馬の背にかかる頃に、足早に降りて来て樋口さん達が避難小屋に居ないと連絡して下さる。先に下山したと思われ、川島が展望台に残り、上村さんにバスで待機していか確認して頂く。バスで待機していた高階鈴、樋口氏が展望台に戻って来る。全員が揃うまで少し時間があるので刈田岳(刈田嶺神社)へ登拝。遅れて来た人も登拝して頂く。



刈田岳・刈田嶺神社



ロバの耳と蔵王山



道の駅で昼食

本行事で企画した山登りは12時前に終了し、宮城蔵王側へと下山。車窓からロバの耳と蔵王山を撮る。後烏帽子岳・前烏帽子岳が見え「烏帽子名々の山々」を登頂の為、登りに来た事が思い出される。

遠刈田温泉郷の宮城蔵王ロイヤルホテルで入浴着替え(上村和、大江徳、奥村有料)の為15分間立寄る。その後、道の駅「村田」で昼食にする。

昼食後、仙台市のケヤキ並木・定禅寺通り、仙台駅前、広瀬川の市内見学をさせて頂き、新宮市と姉妹都市の名取市を走行し、仙台空港へ。

椎木ご夫妻は、2〜3日栗駒山辺り等を散策の為、レンタカーを予約されていて、レンタカー会社前でお別れする。

空港に15時40分に到着。すると合資・象潟合同タクシーの須藤智和事業部長他1名が、迷惑をかけたと謝罪に土産(えなにはうどん)を参加者全員に下さる。

我々としては、月山を登り終えた帰路であり、大きな支障にならなかつたと事を、御礼方々伝えた。

新日本旅行社の中西さんは、搭乗券の手配で忙しい。



バスから降りる



お世話になった運転手



仙台空港内にて

梶野氏は16時50分発のピーチ航空で関空へ。  
梶野氏と我々の搭乗口は、同じ5番ゲートで、梶野氏を皆で見送った45分後に我々が搭乗する事になる。  
ANA738便は、約15分遅れて出発のアナウンスがあり、ジェット機での飛行になる。機内から富士山が見られた。



搭乗口で出発を待つ



機内からの富士山



大阪空港に19時過ぎに到着。  
新宮組も新名神道・紀勢道経由で帰新する事にする。土山SAで夕食を済ませ、23時30分に帰新した。  
最後に、企画並びに添乗して下さった和歌山新日本旅行・中西様のご尽力により、スムーズに楽しく山行行事を終える事が出来たことに感謝と御礼を申し上げます。

### 行動タイム

「古窯」8:30→9:25 荻田岳山頂P→9:33 お釜展望台 9:38→10:15  
熊野岳 10:45→11:25 展望台→11:30 刈田岳 11:40→11:45 刈田  
岳山頂 P 11:50→12:30 宮城蔵王ロイヤルホテル(着替え入浴)  
12:45→13:15 道の駅「村田」 14:05→15:40 仙台空港 17:55  
→ANA738→19:05 大阪空港 19:35→19:40 中国豊中 IC→20:40  
土山 SA21:20→22:20 紀勢・大内山 IC→23:30 新宮。

(記：川島、写真：川島・梶野)

### 東北三山等遠征ツアー会計報告

実施日；平成29年8月25日(金)～8月28日(月)

収 入		収 出	
内 訳	金 額	内 訳	金 額
会費		新日本旅行(内訳下記)	
会費(16名)@100,000	1,600,000	航空機料金(往復)	692,000
石橋夫妻・三井(3名)@95,000	285,000	貸切バス料金(有料道路料金・	472,500
椎木夫妻(2名)@80,000	160,000	・駐車料金・運転手宿泊代含む)	
田中(キャンセル料)	40,000	宿泊代(さんねむ温泉、	814,760
梶野	15,000	ホテルルートイン、上山温泉)	
寄付金(玉岡憲明)	10,000	飛行機キャンセル料	40,000
寄付金(今野孝祐)	5,000	旅行保健料	10,500
		月山参拝料	10,500
		伊丹空港駐車料金(3台)@6,600	19,800
		車提供代(沖崎・大江)@27,000	54,000
		車提供代(奥村)@26,000	26,000
	2,115,000		2,140,060
余剰金(不足)			25,060

注) 不足分25,060円は、山彦ぐるーぷの一般会計より補填する(沖崎)。